

変態ジーパン娘
奈々子

オナニー狂いのJS4

永田歩実

はじめに

はじめまして。この本を手にとって頂けた事を感謝いたします。

本書は背徳的なデニムフェティシズムに取り憑かれた、ひとりの少女が貪欲にその快楽を貪る物語となっております。幼きながらも、その性欲という欲は、人間全てに公平に与えられたものであり、素晴らしくも儂きものでもあります。

この物語は、私の幼少期をモデルにしております。内容はお読み頂ければ分かるかと思いますが、とても少女とは思えないほどのアブノーマル（変態的）な内容です。しかし、独特なフェティシズムというものは誰もが心の奥底に宿しているものであり、背徳的なものであるほど、激しい性欲をかき立てるものなのです。

それでは、誰もいない場所で、デニムフェティシズムに取り憑かれた少女の変態自慰物語をお楽しみください。

内容

序章	大好きなひとり遊び	5
	真新しいデニムショーツパンツ	5
	脱衣所でのイケない遊び	15
第一章	念願のデニムショーツパンツで	20
	ひとりぼっちのお留守番	20
	回想 デパートの子供服売り場で	33
	ショーパンしゃぶり	38
第二章	真夜中の変態女子小学生	44
	ママが買ってきた色違いの	44
	深夜のトイレでデニムの快感を貪る変態女児	52
第三章	変態ジーパン娘 枝崎奈々子	64

オナニー狂いの変態デニムショーパン女児	64
変態ジーンパン娘の試着室スキニーデニムオナニー	79
12月の終わりに	96
あとがき	104
著者紹介	107

序章 大好きなひとり遊び：

真新しいデニムショートパンツ

枝崎奈々子。

地元の小学校に通う小学四年生、10歳。

ブルーの半袖Tシャツに、先日買ってもらった、真新しい濃いブルーのデニムショートパンツを履いている奈々子は、家の中をキョロキョロと見回しながら、誰もいないことを確認している：

(ハア… ハア…)

奈々子の息は荒かった。

そしてほんのりと頬を赤らめ、まるで我慢できないように、真新しいデニムショートパンツから伸びる太股を擦りあわせている。

（はやく： シタイ：）

奈々子は床に背負っているランドセルを降ろすと、そっと奥にある布団の敷かれた寝室に向かう。

襖をそっと閉めて、奈々子は布団の敷かれたその薄暗い部屋の隅に、ゆっくりと腰を下ろす。そして、その細い両足を恥ずかしそうに開き、Mの字に股を開く。

「ん： ああ：ん」

Mの字に開いた両足をゆっくりと閉じるように擦りあわせると、真新しく、固いデニムショートパンツの股布が、奈々子の幼いアソコにギュウツと食い込む。そのデニムショートパンツの履き心地に、顔を

真っ赤にして、薄暗い部屋の隅で、恥ずかしそうに淫靡な声を上げる奈々子。

その声は女子小学生の可愛らしい声であったが、確実に快感を覚えているイヤらしい声だった。

「あん… ああ… あん…」

JEANS GIRLS VENUS JEANS DENIM SHORTS

奈々子が履きたくて毎日ウズウズしていた、女兒用ジーンズブランドである JEANS GIRLS のデニムショートパンツ。

そう、奈々子はオナニー用に履きたいデニムショートパンツを、イヤらしくも母親にオネダリしたのだ。もちろん母親は、まだ小学生の娘

が、まさかそれを履いてオナニーする等とは思ってもいない。奈々子はそう確信していた。

小学四年生、枝崎奈々子：

一見普通の可愛らしい女子小学生なのだが、その頭の中ではエッチなこと、つまりオナニーのことしか考えていなかった。

オナニー。

自分の性器をいじり、快感に耽ること。

学校の図書館で、何気なく辞書で見つけたその言葉に、奈々子は非常に興味を示し、興奮した。そして、授業が終わり帰りのホームルームが終わると、奈々子はひとり、学校のトイレの中に忍び込んだ。